審査の結果の要旨

氏 名　　岡田威海

論文題目　　環境の構造に関する基礎的研究　～日本民家集落の場合の考察～

この論文は日本の民家集落が人工環境ではあるが、原初性と自然成長性をもっている点に着目して、これらの実地調査と実測の結果を題材として、環境の構造を究明することを目的としている。

本論文は、序論と結論のほか、人工環境化構造を形式の側面から捉えた第1部（6章）と意味の側面から捉えた第2部（6章）とで構成される。

序論では、研究の目的、位置づけそして既往研究の分析のほか、調査を行った6箇所9集落と文献資料からの7集落の計16集落を主な研究の対象としたことを示している。

第1部　環境の形式構造

第1章では、形式構造の分析を行う上での主要な概念規定と分析枠組みの設定を行っている。すなわち環境の単位を定義し、基底となる単位の構成形式（基底型）を提示している。本研究では、環境の形式構造の分析を、この構成型を分析することであるとして、構成型を規定する要因として、形状・位置・取合・出入口・境界の開閉といったの五つの関係を規定型から導いている。また、構成型を、これらの要因に属する形式特徴の対立項の均衡状態として捉え、論を進めている。

第2章では、家屋単位の構成型を抽出し、それらが床上の形状関係における方向型と均等型と、家屋の取合い関係における通り型と止まり型との二つの対立項が二組の形式特徴の対立関係によって構造化できることを示している。

第3章では、敷地単位の構成型を抽出し、それらが敷地の取合い関係における中庭移行型と外周庭維持型と、敷地の出入口関係における道入り型と庭入り型との対立項が二組の形式特徴の対立関係によって構造化できることを示している。

第4章では、ブロック単位の構成型を抽出し、それらがブロック内の敷地の位置関係における孤立型と接道型と、ブロック境界の開閉関係における道庭型・路地型・閉鎖型との対立項が二組の形式特徴の対立関係によって構造化できることを示している。

第5章では、集落単位の構成型を抽出し、それらが街路網形状の方向型と均等型と、集落の出入口関係における陸系型と水系型との対立項の二組の形式特徴の対立関係によって構造化できることを示している。

第6章では、第1部のまとめとして、日本の民家集落における環境単位の構成型の相互関係を整理し、

構成型の索出過程を一般化している。第1部の結論として、環境の形式構造は、より内側を形成しようとする力が、境界空間を介して、構成型の各規定要因にはたらき、段階的に内部を形成していく構造をもつことを示している。

第2部　環境の意味構造

第1章では、意味構造の分析を行う上での主要な概念規定と分析枠組みの設定を行っている。内包的意味として内部性概念を設定し、それを支える外延的意味として、階層性・結合性・対面性・表性の四つの意味類型を導いている。本研究では環境の意味構造の分析とは、この内部性を分析することであるとして、内部性を各意味類型に属する意味特徴の均衡状態として捉えて論を進めている。

第2章では、階層性に属する意味特徴として、引き込み性・方向転換性・開閉性・量塊性の各項目を抽出している。また空間と物体(境界)に生じる意味の二分類軸により、階層性の意味特徴を構造化して示している。

第3章では、結合性の意味特徴として、媒介結合性・通り抜け結合性・拡張性・中心性・一様性の各項目を抽出している。また空間と物体(境界)に生じる意味の二分類軸により、結合性の意味特徴を構造化して示している。

第4章では、対面性の意味特徴として、補助空間性・空地性・接触交換性・開口性の各項目を抽出している。また空間と物体(境界)に生じる意味の二分類軸により、対面性の意味特徴を構造化して示している。

第5章では、表性に属する意味特徴として、出入口の表性・中心の表性・表明性・表の形状性の各項目を抽出している。また空間と物体(境界)に生じる意味の二つの分類軸により、表性の意味特徴を構造化して示している。

第6章では、第2部のまとめとして、日本の民家集落の環境単位ごとに、その内部性を整理している。また内部性の索出過程を一般化している。さらに、四つの意味類型が、個別性と集団性と、対内性と対外性との対立項の二組の対立関係によって構造化されることを示している。第2部の結論として、環境の意味構造は、より内側を形成しようとする力が、境界空間を介して内部性を支える各意味類型にはたらいて、段階的に内部を形成していく構造をもつことを示している。

以上のように、本論文は日本の民家集落の実地調査・実測に基づいた分析により環境構造を究明して基本的な知見を示し、建築計画学の発展に大きな寄与したものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。